

君の名は

東京に住む男子高校生と田舎の女子高校生が夢の中で入れ替わるストーリー。『君の名は。』私が好きな映画の一つです。千年ぶりとなる「彗星」の来訪を一か月後に控えた日本が舞台となっていました。

ここ三宅島は、都心からの光の影響を受けず、満点の星が輝く島です。光害調査のデータを地図表示した「日本光害地図」によると、他の伊豆諸島と比べても、島全体が光害の少ない星を見るのに適した島ということが分かります。実体験としても、手を伸ばせば、掴めそうなくらい近くに感じます。

話は年始になります。1月3日の深夜、日付が変わるころに三宅島でも天体ショーが!!

その名は、「しぶんぎ座流星群」。しぶんぎ座流星群は、8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群とともに三大流星群と呼ばれています。皆さんは、ご覧になりましたか。

そもそも流星は、宇宙から地球に入る隕石が大気中を通過する際に発光する現象です。空気抵抗の摩擦により隕石が高温に加熱され、光を放つ。この光は隕石の蒸発や溶解によって生じるものだそうです。それが、流星の正体です。

私は、雄山の山頂に近い絶景ポイントまで、真夜中に自動車で行くことにしました。しかし、冬の島風は猛烈で、さらには気温も体感10度以下。ゆったりと星空観察なんてものではなく、罰ゲームのような時間が流れ……。小1時間が過ぎ……。

その時でした。一瞬だけ今までに見たことがないくらいの長さの流星が……。時間が止まったような感覚。その姿を追いかけ、首を右から左へ。およそ2秒間程続いたでしょうか。輝きと共に幻想的な雰囲気にも包まれ、「おおお!!」思わず発した地響きのような感嘆の声!!

しかし、余韻にひたる間もなく一瞬にして、その感動も暴風音にかき消されました。足早に車に乗り込み、エンジンをスタートさせ、引き返しました。

さて、場所は体育館に移ります。現在、どの学級も2月18日(火)に行われる長縄大会へ向けて練習をしています。3分間の8の字跳びの回数を競い合います。練習期間とすれば、3週間ほどですが、見違えるように無駄のない洗練された跳び方になってきています。学級の新記録が出るたびに、拍手と歓声が上がり、達成感に包まれています。記録が思うように伸びない時には、みんなで輪になり、どうすればもっと回数が増えるのか話し合う6年生の姿が見られました。担任の先生は、子供たちのそばに立っていますが、決して発言しません。担任はじっと我慢しています。6年生がいかに自分事として主体的に取り組むことができるか、見極めていきます。

先生が主人公の長縄ではありません。
恐らく6年担任は、心の中でこう言っているでしょう。
「決して、先生の長縄ではない」
「君(たち)の縄!!」

来週、決戦の日を迎えます。空気抵抗にも耐え、発汗し、チーム内のわずかな障壁も溶解され、流星のごとく輝きを放つことを期待しています。

